

2026年度事業計画

施設名 ガーデンエル

施設長名 六川 徳子

1. 運営目標

「アッタエルロイ」あなたこそ私を顧みられる神です。

施設名でもあるこの聖句を基本に、ガーデンエルを必要とする乳幼児を受け入れて、次の養育者へ丁寧に繋いでいく。

里親支援機関B型として、里親支援を充実させていく。

新しい社会的養育ビジョンで求められる10年計画をガーデンロイと連携して進める。

2. 中期計画分析と2026年度計画

I. 地域の現状と課題の把握

【中期計画分析】

- ・2024年の人口統計では、出生率が1.15であり、大阪府の0-2歳の人口が予想よりも10000人以上大幅に減少している。しかし、大阪府の虐待相談対応件数は1万5千件以上で年々微増している。乳児院への措置児童総数は年々減少しているが、一時保護児童は増加しており、社会的養護を必要とする子ども達は大きく変わらない。
- ・大阪府下の乳児院の定員は、148名(一時保護専用床4名を含む)と減少しているが、政令指定都市や中核市で児童相談所が開設され、それに伴い小規模の乳児院も新設されており、乳児院の定員減は緩やかである。
- ・大阪府は2029年に3歳未満の里親委託率54%を目指している。大阪府下の登録里親数は横ばいである。
- ・東大阪市における各種計画の把握に努めた。
- ・大規模自然災害や火災への備えについて、専門家と意見交換できる機会を持つことができた。BCPを作成し、室内の減災に向けて、少しずつ取り組んでいる。
- ・東大阪市で児童相談所が2030年に開設される見通しとなった。
- ・里親支援について、大阪府が独自に里親支援機関B型を継続するため、広報、リクルート、訪問支援等をエルロイで協力して活動を進めている。

【2026年度計画】

- ・施設によるより家庭的な養育支援だけでなく、ロイと共に家庭養育の場としてのMy里親を更に開拓する。
- ・東大阪市国土強靱計画に示された大規模自然災害で想定されている被害に対して備える。
- ・東大阪市第6期地域福祉計画とリンクできるものは積極的に取り組む。

II. 施設内を意識した運営

【中期計画分析】

- ・新型コロナウイルス流行や職員体制の影響から、暫定定員が続いたことで、新ビジョン計画とは異なるが、2025年度から乳児6名1ホーム、幼児6名が3ホームの24名となった。措置、一時保護、ショートステイをできる限り受け入れているが、乳児の依頼が多く、体制上すべてに対応することは難しかった。
- ・一時保護依頼が増え、子どもの入退所が多くなったことで、一時保護ユニットを設定したが、長期入所の一時保護児童が増え、職員の負担が増したことで、一時保護ユニットを廃止し、全てのホームで一時保護を受け入れた。一時保護ユニットでアセスメントから支援目標までの流れを整理したことで、全ホームで活用でき、少しずつ改良されて、よりよい支援につながっている。
- ・第三者評価は2022年、2025年に受審し、それ以外の年は全員で自己評価を実施している。自己評価の結果や、第三者評価の受審結果は全体で共有し、業務の改善につなげている。
- ・幅広いキャリアの職員が働いており、それぞれの経験を生かして子どもの遊び、養育等を見直しながら進めることが出来た。
- ・スーパービジョン、階層別の目標とする職員像や個人の目標設定など、専門性の向上に向けた取組を行った。少しずつ整理され、活用されるようになりつつある。また、職員のメンタルケアも心理士を中心に取り組んだ。
- ・各種会議の進め方、検討内容などを整理したことで、課題を中心に検討できるより活発な会議となった。
- ・子どもの遊びに注目して、室内あそび、外遊びや、年齢別の遊びの時間、玩具などを工夫してきたことで、日中の遊びが充実したものになっている。また、発達を配慮した玩具をそろえることで、遊びの幅が広がった。
- ・ごちそう委員会を中心に、食育の年間計画を立て、家庭菜園等、食に関する豊かな経験の機会を持つことが出来た。また、離乳食の介助の在り方、食事の姿勢、椅子や机の高さを見直し、楽しく食べることを大切にして、食事の時間が豊かになるように努めた。また、偏食や体重増加不良など状況に合わせてメニュー等柔軟に対応した。
- ・新型コロナウイルス等の感染症流行時は都度見直して周知をして対応した。

【2026年度計画】

- ・子どもの生きる力となるよう大人との基本的信頼感やアタッチメント関係を育む。
- ・子どもが心身ともに豊かに成長できるよう、子どもの社会経験など様々な経験の機会を作る。
- ・子どもの遊びの内容を充実させ、発達に応じた遊びができる環境を整えていく。
- ・一時保護について、アセスメントをより充実させ、関係機関と協働し、より良い支援につなげる。
- ・措置、一時保護の関係なく、退所時は、関係機関と協働して、家庭引取であっても、児童養護施設等への措置変更であっても、丁寧に次の養育者へつないでいく。

- ・階層別の目指すべき職員像、スーパーバイズ、OJT を活用した人材育成の体制を整え、職員のメンタルヘルスに関する取組を充実させる。
- ・事前準備、進行、議題などを工夫しながら、活発な意見交換がなされる会議にしていく。
- ・感染症対策、病児対応を都度見直し、看護師を中心に衛生、感染症対策、病児対応を職員全体に浸透させる。
- ・自己評価を実施し、よりよい施設運営につなげていく。

III. 地域を意識した運営

【中期計画分析】

- ・里親支援機関B型の活動として、現在はMy里 13 家庭（養育里親 5 家庭、養子縁組里親 8 家庭）の支援を児童相談所と共に行っている。
- ・東大阪の里親会に積極的に参加し、様々な交流をする中で良い関係を築いている。
- ・東大阪役所、八尾アリオ、地域の商店街での里親相談会に加え、里親に関連した映画の上映会や、依頼を受けて里親制度や社会的養護の説明を行うなど、より活発に広報活動を行った。
- ・ショートステイの契約を東大阪市だけでなく、大東市、八尾市とも結んだ。また、2026 年度から枚方市とも契約する予定にしている。
- ・東大阪市東地区地域福祉ネットワーク推進会議に参加している。
- ・大阪府と協議して 2025 年度から定員 24 名で運営している。

【2026 年度計画】

- ・東大阪市東地区地域福祉ネットワーク推進会議に積極的に参加する。
- ・災害時の福祉避難所の機能を研究する。
- ・里親の新規開拓を進めつつ、里親家庭への支援の充実を目指す。
- ・乳児院の高機能化・多機能化に向けて、ニーズに応えられる事業の在り方、体制を模索していく。

IV. ミッションステートメント 2009 (MS2009)

【中期計画分析】

- ・エルロイ合同で朝の礼拝と申し送りをしていていたが、新型コロナウイルスの影響で中止し、そのまま礼拝をしていないので、聖書の言葉や賛美歌に触れる機会が少なくなった。
- ・職員会議で聖書の言葉に触れ、MS2009 への理解を深めることができた。
- ・主の祈りを職員会議前に祈り、気持ちを整えて会議を行うができた。
- ・キリスト教理解のために、12 月に上内牧師を招き、イエス団とクリスマスについて話を聞く機会を設けたことで、少しずつではあるが、理解を深めることが出来ている。

【2026 年度計画】

- ・主の祈りを職員会議前に祈る。
- ・職員会議で聖書の言葉を聞く。
- ・新任研修でキリスト、賀川の思いを学ぶ。
- ・SGDs『@平和と公平をすべての人に』を目標に、ガーデンエルが乳幼児の安心安全な生活の場であること、また、退所後の生活が穏やかで最善の利益が守られるよう受け入れ先の環境を整えて送り出す。

V. その他

【中期計画分析】

- ・情報を集めて、災害時の備蓄内容を点検し、食品関係はローリングストックを意識している。賞味期限内で消費する時を考慮して普段の献立に組み込みやすい食品を選んでいる。それにより、備蓄食をおいしく食べる工夫にもつながっている。
- ・備蓄食はアレルギーを考慮して卵を使用しない献立を作成、幼児食 20 名、大人はエルロイ合わせて 30 名、水は一人 1 日 3 リットルで計算して、6 日間分を備蓄できるようにしている。
- ・計画に沿い、補助金を受けて大規模修繕を実施することが出来た。

【2026 年度計画】

- ・災害時の危険を減らすべく、敷地内及び室内の危険個所を確認し、対応する。
- ・災害に対する備えを見直し、強化する。
- ・次の大規模修繕に向けて、積み立てる

3. 中期計画で達成された目標と次期中期計画に盛り込みたい目標

【中期計画で達成された目標】

- ・幅広い年齢層が働いている仕事場にする。
- ・大規模修繕が完了
- ・2025 年度末時点で、My 里親が 13 家庭となっている。
- ・2024 年に WAM 借入金完済

【次期中期計画に盛り込みたい目標】

- ・第三者評価受審と自己評価で事業の点検と改善を行う。
- ・大規模自然災害に対する備えを行う
- ・災害時に地域と連携し、福祉的支援センターとしての役割ができるようにしていく。
- ・「新ビジョン」の計画を進めていく
- ・次の大規模修繕に向けて、積み立てていく

4. 利用者人数計画

クラス・事業	ひよこ (0歳児)	たんぼぼ (1-3歳児)	ひまわり (1-3歳児)	さくら (1-3歳児)	合計
認可定員数	6	6	6	6	24

・定員数：24名

5. 利用者サービスの計画（健康・栄養・衛生・安全管理等）

ア) 健康管理

- ・年2回の健康診断実施
- ・定期予防接種、任意予防接種の実施
- ・定期健診の受診

イ) 栄養管理

- ・栄養指導・栄養管理技術の向上のため教育研修事業、講演会などに参加する。
- ・厨房の職員も生活の場に入り、豊かな食生活につなげる。
- ・個々の成長・発達、心身の状態、体調など必要に応じた食事提供を行う。
- ・実態の把握とアセスメントを行い、献立の作成、調理に配慮する。
- ・職員へ食生活や栄養に関わる知識の普及に取り組む。
- ・非常災害時における栄養管理について、大人・ロイ児童であれば1日1500kcalのエネルギー確保を目標に、非常食を見直す。

ウ) 衛生管理

- ・消毒を徹底し、感染症の予防、感染拡大防止に努める。
- ・感染症発生時のマニュアルを整理し、看護師による衛生についての講習を定期的実施する。

エ) 安全管理

- ・ヒヤリハットの記録、共有を徹底する。
- ・危機管理委員会及び避難訓練を毎月取り組む。
- ・事故を想定した訓練、救急救命の訓練も定期的実施する。
- ・不審者対応を強化し、敷地内に侵入しづらいよう整備する。

6. 職員処遇の計画（昇給、採用退職、福利厚生、研修等）

ア) 昇給

- ・定期昇給に加え、令和8年1月15日発出の子ども家庭庁事務連絡「令和7年度補正予算における児童入所施設措置費の対応について」に基づき、給与表の改定を行い全職員給与のベースアップと役職者や専門職給与を見直す。

イ) 採用退職

- ・大学3回生、短大、専門学校1年生を対象にした業界研究としてのお仕事体験を企画、実施する。
- ・4月から見学説明会と採用試験を実施する。
- ・7月に次年度の意向調査を実施し、入所状況、社会情勢を踏まえて、採用人数を決定する。

ウ) 福利厚生

- ・エルロイ職員交流の機会として、昼食会、新任歓迎会等を開催する。
- ・退職職員に感謝のプレゼントを手渡す。

エ) 研修

- ・キャリアアップを見据え、可能な限り研修を受講する。
- ・階層別の研修計画に沿って、職員それぞれの受講計画を立てる。

7. 施設・設備の整備計画（税抜100万円以上記載）

整備の名称	金額	財源（補助金等の金額）
ひよこホームの床修繕	1,000,000円	措置費/事務費

8. 借入金償還予定（単位・円）

なし

9. 会計予算の状況

- ・2026年度措置費請求の設定定員が認可定員24名から暫定定員23名となるため事務費が大きく減収する。また、措置児童数減による減収も見込まれ、人件費率は大阪府下の多くの乳児院と同じく80%を超える可能性がある。
- ・修繕、機能転換に備え積み立てを行う。

10. その他特記事項

.

11. 今年度行事等計画書（施設名 ガーデンエル ）

- ・ホーム単位での季節の行事や誕生日会を行う。
- ・厨房からの旬の食材を用いた家庭料理を皆で楽しむ。
- ・月に1回程度、厨房職員がさくらホームのキッチンで夕食の炊飯や汁物を作る。
- ・ごちそう委員を中心に、厨房と協働して、計画的に食育を実施する。
- ・感染症の流行状況を見ながら、子どもの発達に合わせた外出を計画する。

* 定例行事（職員会議、月例保護者会等）

- ・子ども：ホーム単位で季節の行事を実施。
- ・職員：毎日 エル申し送り（朝・夕）
毎月 施設長・事務長会議、主任会、ユニットリーダー会議、エル職員会議、ホーム会議、ごちそう会議、保健衛生会議、危機管理会議、里親支援会議、情報共有会議、子どものための委員会、厨房会議